

所在地	福井県福井市大手3-17-1
建築主	福井県
設計者	株式会社 日建設計
施工者	株式会社 熊谷組 飛島建設株式会社 前田建設工業株式会社
竣工	1981年 9 月30日
location	Fukui Prefecture
owner	Fukui City
architects	Nikken Sekkei, planners, architects, and engineers
contractor	Kumagai-Gumi Co., Ltd. Tobishima Construction Co., Ltd. Maeda Construction Co., Ltd.
completion date	September 30, 1981

概要

建築概要

敷地面積	21,047.93㎡
建築面積	3,610.64㎡
延床面積	43,173.30㎡
構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造・一部鉄筋 コンクリート造 地下3階・地上11階・塔屋1階

仕上概要

外装 屋根：アスファルト防水コンクリート押え／外壁：高温焼成珪器質タイル打込み・一部金属成型板／バルコニー：塗布防水コンクリート押えモルタル／建具：片引きアルミサッシュ
電解着色・アルミ押出型材合成サッシュカーテンウォール・透明複層ガラス

内装 エントランスホール 床：花崗岩ジェットバーナー 壁：珪器質タイル 天井：リブ付岩綿吸音板EP／県民ホール 床：花崗岩ジェットバーナー 壁：珪器質タイル 天井：アル

ミ型材ルーバーパネル／正庁 床：カーペット
タイル 壁：珪器質タイル 天井：岩綿吸音板(着色)／一般事務室 床：ビニールタイル 壁：石膏ボードEP 天井：岩綿吸音板

設備概要

空調 方式：ファンコイル併用各階ダクト方式(一般系統) パッケージ空調機+小型ヒートポンプユニット(暖房時の熱源に電算機室の発熱を利用・時間外系統)・単一ダクト方式(正庁・ホール)・県民ホールはフローヒーティング併用／熱源：直焚冷温水機310RT3台の台数制御・冷暖房能力930,000Kcal・1台は冷温水同時取出型・冷却塔335RT3基(一般系統) 知事室・防災センター・査定室・電算機関連室・小型ヒートポンプユニット・パッケージ空調機・冷却塔100RT2基・蓄熱槽15ton(時間外系統)

換気 方式：第1種(厨房・電気室・機械室) 第2種(駐車場・便所・湯沸室)／換気系統：中央式(一般系統・便所・湯沸室)・個別排気(時間外系統・

電算機室・査定室) 自然給気を主とした方式とし系統を細分化(駐車場系統)／排気熱回収：全熱交換気による便所・湯沸の排熱利用

衛生 給水：重力給水方式・飲料用と雑用の2系統／受水槽：飲料用20㎡×2基(FRP単板)・雑用125㎡(地下床下)・冷却塔補給用(消火栓兼用)125㎡／高架水槽：飲料用20㎡(FRP複層板・中仕切2槽式)・冷却塔補給用20㎡(FRP複層板・中仕切2槽式)・冷却塔補給用20㎡(同上)・雑用20㎡×2基(FRP複層板)／給湯：各階湯沸室に貯湯式湯沸器43ℓ×21・知事室+特別室20ℓ×7・理美容室320ℓ貯湯式15KW／排水：汚水と雑排水分流式(屋外にて合流)・公共下水道放流

消火 屋内消火栓：54台／スプリンクラー：全館／ハロンガス：電気室・機械室・電算機室・資料室など／泡消火：地下駐車場／連結送水管：屋外2ヵ所(双口)・各階2ヵ所-27台

排煙 機械排煙：地下居室廊下・特別避難階段付室・駐車場など／自然排煙：地上階



南側全景／General view of the south



エントランスホール／Entrance hall



右：エントランス部分の外観／right:Exterior of the entrance



県民ホール／Main lobby



地下1階・正庁／Lecture hall on the 1st basement floor

選評 REVIEW

小堀 鐸二 Takuji Kobori
佐野 正一 Shoichi Sano
田村 真二 Shinji Tamura

福井県庁舎は、置県100年記念事業の一つとして、将来ますます発展する福井県の象徴として、近代的で今後の行政の高度化と多元化に対処し、県民の要請に応えることのできる高い機能性と幅広い対応性を持つとともに、県民が親しみやすく、また風致地区である周囲の環境によく調和する県庁舎として計画されたものである。

以上のことを具現化するような最良の設計を得るため、県は指名設計競技方式を採用し、大手設計事務所5社指名による設計コンペを行ない、応募案を慎重審議の結果、日建設計案が採用されたもので、公共建築の設計委託の方法についてとかくの論議のあるなかで、この方法は一つのすっきりしたものを感じさせる。

もっとも当選案がそのまま実施されたわけではなく、実施設計に当たっては執務スペースの増加、敷地内における建物の位置の移動など、いくつかの要求が出ており、その解決策が種々とられたが、当選案の評価ポ

Built as part of the celebration of the centennial of the founding of Fukui Prefecture, these new offices are called on to satisfy a number of demands. First, the building is supposed to symbolize future prefectural growth and to serve as a basis for the elevation and diversification of prefectural government. Second, in response to popular demand, it is expected to be functionally very flexible while being a building with which the citizens can feel comfortable and at home. It must harmonize with the surroundings, which are a scenic preserve.

To select a design that would best realize these aims, the prefectural authorities held a specified-participation design competition among five major design organizations with the result that the proposal of Nikken Sekkei, planners, architects, and engineers, was chosen. Though there is some argument about the awarding

イントはすべて生かされているといっても過言ではなかろう。

敷地は福井市街の中心部、かつての福井城址、今も本丸の石垣と堀が昔の面影を残している最高の環境といって良い場所である。

南側からお堀にかかる橋を渡ると堂々たる威容が来訪者を迎える。左右対象のこの外観は両側の無窓の壁面に挟まれた中央部のガラスとアルミ・スパンドレルで構成される壁面が5階分の吹抜けの玄関部と一つのアクセントとなって、建物のなかに迎え入れるような感じを与える。玄関に続くエントランスホールはトップライトによる自然光によって明るく、その奥にある県民ホールは4階分の吹抜けの空間を持ち、北側の全面ガラスの壁面を受けて、なかなかリッチな空間を構成している。

この計画で一番のポイントは平面計画であろう。H型の基準階プランは南北に軸を採り、事務スペースを東側と西側に向けた

of public design contracts, the system used in this instance is open and reasonable.

The winning design was not, however, put to use without alteration. Demands were made for increasing the amount of business space, alteration of positioning within the site, and other changes. Still it can be said that most of the admirable points of the original proposal were preserved.

In the center of the city, the excellent site is among the stone ramparts and moats of what was once Fukui Castle. The building, which rises imposingly at the end of the bridge leading across the moat on the south side, consists of two vast, windowless blocks joined by a section of aluminum and glass wall, accented by the entrance hall, which is five stories high and seems to invite visitors inside. Beyond the entrance is the hall, which is brightly enriched by a totally glazed north

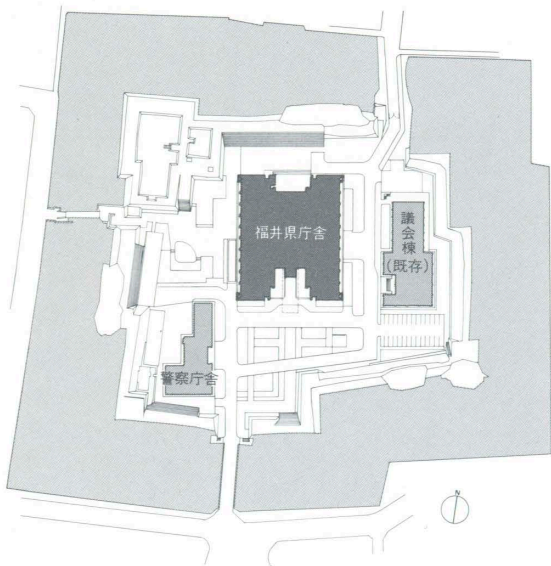
ことである。普通には東西軸が採られることが多く、またこの軸の採り方はいろいろと評価が分かれるところであったようであるが、福井という北陸の気象・風土のなかで、特に冬期の執務空間を考える場合、この配置は成功であったと思われる。また、この平面計画は、事務スペースとコアスペースのバランスのよい動線計画や、外部バルコニーと四隅の非常階段による災害時の避難路の確保など、極めて明快な解決を示している。外観を構成するスタイルの色彩とテクスチャー、各種ディテールにも細かい神経が行き届いており、全体としての作品の価値を高めている。

施工に関しては北陸の気象条件や特に風致地区であるこの敷地内でのさまざまな制約があったことは想像に難くない。郷土に本拠を置くこの各社が、面子をかけての施工への意気込みはたいへんなものであったと聴くが、その努力は立派な成果を生んだといって過言ではないと思われる。

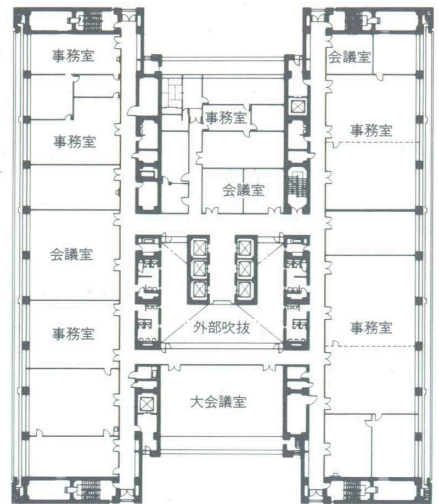
wall.

One of the most outstanding points of the design is the floor planning. The axes of the H-form standard-floor plan run north and south; office spaces are oriented on the east and west. Though usually the axes run east and west and though there has been much discussion about the advisability of the orientation, in the light of the climate and natural setting of Fukui, which is in the north where winters are bleak and cold, this placement seems successful.

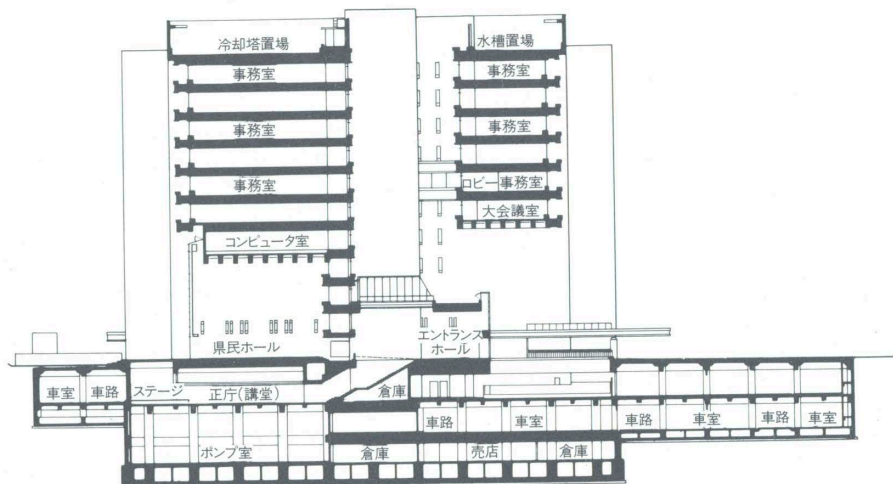
No doubt restriction connected with the historic importance of the site and hardships caused by the severe climate aggravated the difficulty of the contractors' work. It is said that the local contractors were spurred to great effort in this project since they were risking their reputations among people who know them. Be this as it may, their efforts resulted in a splendidly successful building.



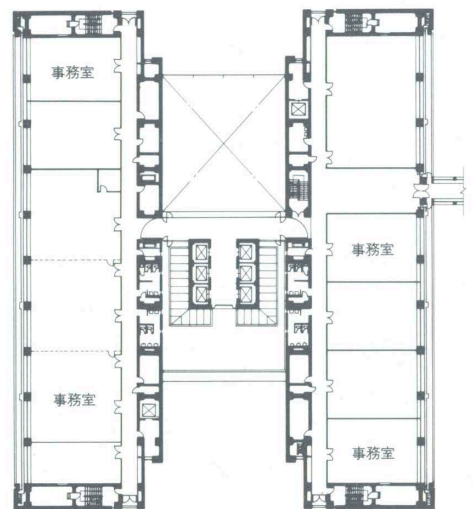
配置 縮尺1/4,000



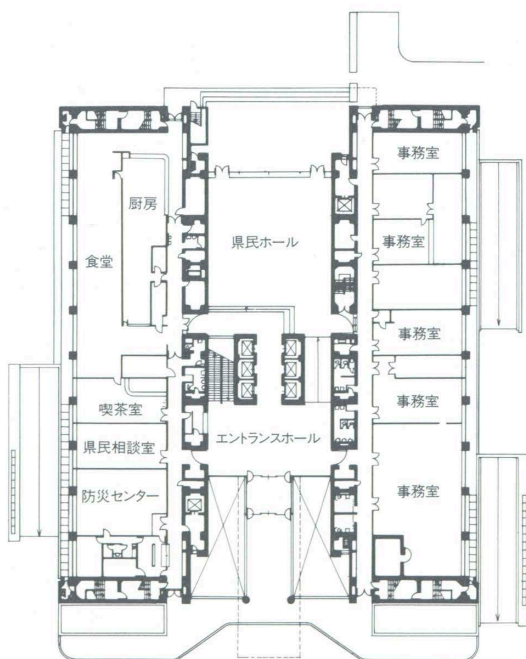
基準階平面



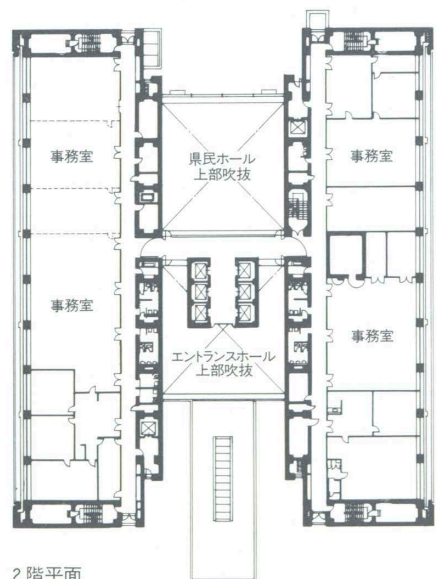
断面 縮尺1/1,000



3階平面



1階平面 縮尺1/1,000



2階平面